

江崎知事 × 岐阜総合学園高等学校 若者未来デザイン会議 開催概要



(知事と農政部長と参加者の皆さん)

1. 日時

令和7年8月6日(水) 16:30～17:30

2. 場所

岐阜県立岐阜総合学園高等学校

3. 参加者

岐阜県立岐阜総合学園高等学校2年生の皆さん 27名

江崎知事、県農政部長

4. テーマ

「知事に提案！私たちが変えてみせます、岐阜県の農業」

「農業×教育」、「農業×移住」、「農業×観光」、「農業×企業連携」、

「農業×福祉」の5グループに分かれて提案



5. 生徒たちからの提案



①農業×教育

- ・ 高齢化や担い手不足が課題
- ・ 課題解決のために「担い手の卵」を育てる施策を考案
- ・ 農業はつらい仕事というイメージを払拭し、農業の楽しさを知ってもらう

【担い手の卵を育てよう】

- ・ 対象は小学6年生
- ・ 地域の皆さんに協力してもらい畑を借り、地域の農家さんに作り方を教わる
- ・ 春に自身で選んだ野菜の苗を植え、夏に収穫した野菜で給食のメニューを考え、給食としてみんなで食べる
- ・ 秋に収穫できるサツマイモを作り、「運動会のように行う収穫対決」「サツマイモレシピ対決」を実施
- ・ 「レシピ対決」で一位となったレシピを給食のメニューに採用
- ・ 最後に、この事業でお世話になった皆さんに報告会を実施。レシピ発表や収穫した野菜のおすそ分けをする

この活動を通して、農業体験をした人が地域の農業を手伝い、将来的に農業に関わる仕事に就く人を増やす！

②農業×移住

- ・ 農業の課題の中で、「農村部の過疎化や高齢化」という課題に着目
- ・ 農業は田舎に多くあり、農村部の過疎化が進むと農業をする人が減る
- ・ 都市部の若者には、農業に関する知識不足、収入に対する不安がある。また、移住するための土地や家、農業機械等の準備費用が高額といったハードルがある
- ・ 若手の働き手を増やすため、「農業を田舎で始めるハードルを下げる」施策を考案

【農業を田舎で始めるハードルを下げよう】

- ・ 農業体験プログラムを制作し、地域ぐるみで農業体験できる組織を設立
- ・ その組織に、都市部に住む方々に対して農業に関することを教えてもらう

- ・農業を希望する方に、組織の農家さんが教え、その後個人で自立した農業が行えるようサポート
- ・体験による住居や農地などは組合から貸し出し、体験で得た収入の一部も受け取ることができるため、不安要素が少なくなりハードルが下がる

**この施策を実行することで、地方に移住し、農業を始めやすい環境を作る！
同時に、地方の過疎化を食い止める！**

③農業×観光

- ・課題は3つ。1つ目は高山市などの一部の地域しか海外の観光客が来ないこと。2つ目は英語ができない人が多く言語の壁があること。3つ目は食べごろに実った野菜は出荷できず廃棄されること
- ・解決策は、海外で情報を広め、言語の壁を解消すること
- ・写真映える商品を作って、海外の人気インフルエンサーに紹介してもらうことや、航空会社や旅行会社と連携して広めることができると考え、野菜を使った観光プランを提案

【トマトフルコース観光】

- ・海外旅行者に、熟れて出荷できなくなったトマトを収穫体験してもらい、料理として提供し、観光資源にするとともに、廃棄されるはずだったトマトを減らすことができる
- ・キッチンカーを利用し、「収穫したその場で料理を提供する」、「宿泊施設と連携し収穫したトマト料理を提供する」などし、楽しんでいただくことができる

トマトと観光地を組み合わせた体験ツアーで、岐阜県の農業を盛り上げる！

④農業×企業連携

- ・農家が減ることで食料自給率が低下し、食品の安全性が担保できなくなる
- ・農家の所得を上げることが、食料品の値段を上げることになるため、簡単に金額を上げられない。それにより担い手が不足
- ・人材不足は農業に限ったことではないため、補助に頼るという考えではなく自立していくことが必要。そのため、地域密着型農業企業を設立し、「企業単位」での農業機械の購入や、人材育成により、農家としての自立のハードルを下げられないかという視点で考えたが、すぐに実行するのは難しい
- ・そこで、すぐに実行できる既存の企業との連携を提案

【既存の企業との地域連携】

- ・持続可能な農業を岐阜県から始めて全国に広げてほしいと考え、下記のような企業連携を提案

○コンビニとの連携

- ・全国展開しているコンビニで、地元野菜や果物、柿やイチゴなどを使った商品を共同で開発
- ・岐阜県産であることをメインにPRすることで、魅力を全国に発信できる。また商品に農業を宣伝するシールを貼るなどして、農業をするきっかけを作る

○祭りとの連携

- ・農家や、農家と連携している企業、県が地域の祭りなどにキッチンカーで出展して、地域の農作物を使った料理やスイーツを提供
- ・その地域での知名度が上がり、購入してもらいやすくなったり、農家と連携できる企業が広がる機会となる

○スーパーとの連携

- ・県内野菜を購入するスタンプラリーをして、特典やクーポン、体験チケットなどを交換できるという企画
- ・地産地消で、農家は地元で売れ、消費者は地元産の農産物を食べることができ、スーパーは集客できて、みんなにメリットがあり、地域と関係構築ができる

○飲食店との連携

- ・地域で作った農作物を見せながら提供する。例えば柿を作り、その柿を使ったかき氷の提供をし、それをきっかけに将来の担い手になってくれる人ができればと考えた

企業と連携した持続可能な農業で日本の農業を守る！

⑤農業×福祉

- ・地域の農家さんが今まで協力しあって農地を守ってきたが、高齢化により農業をやめる人が増えている。かつ新しく担い手になる方も減っている
- ・そのため、管理できない農地が増え、農業地域の農業が衰退していくという課題があり、これが続くと地域そのものに活力がなくなる
- ・この課題を解決するため、若者に農業への興味を持ってもらい、地域の関わりを構築できるような施策が必要
- ・周りに聞き、「気軽に農業を始められることが必要」という意見が多かった

【栽培キットの配布】

- ・農業や食に興味を持った人が多く訪れることを想定して、野菜の直売所や農業体験視察などで配布
- ・興味を持った人が、実際に農業を体験できることで、より関心を持ってもらう
- ・自分たちの育てた野菜を持ち寄り、収穫祭で調理して食べる。その味は世界で一番。さらに地域の人との対話によりおいしさは倍増
- ・自分で育てたものを食べて生産者側の喜びを知り、地域の人との交流も活発となることで地域への愛着が強まり、定着する。さらに、収穫祭で農家の人と関わり、実施に農業を手伝ったりすることで農業に携わるきっかけにもなる

農業を体験し、地域の人とつながり、農業をする人を増やし、岐阜県に定着する人を増やす！

○農政部長のコメント

①農業×教育

- ・非常に良い提案。地産地消で地元産の野菜とか食材を給食に出そうという取組みがあるが、単純に給食を食べるだけでなく、実際に調理してみよう、農作業もしてみようというところに繋がりたいというもの
- ・市町村、学校と連携し、一緒になって、この提案を実現させてみたい

②農業×移住

- ・中山間地域では、どれだけ農業をやってもらえる人を入れ込むかというのは本当に課題。その課題分析も素晴らしい
- ・参入障壁のハードルを下げるために、まずは農業体験をしてもらいながら、農地や機械を貸し出す仕組みを、まさにこれからやっていきたい
- ・田舎に移住する方は実は農地が欲しい。住宅と農地に関する情報を提供できるよう整えながら、なるべく農業に携わる人が増えるような取組みを強化したい

③農業×観光

- ・年間230万人くらい来ていただいている海外からの観光客の皆さんに、岐阜県の美味しい農産物を食べていただきたいと考えているので、非常に良い提案
- ・外国人観光客に国内で消費してもらうことも、輸出と同様の意味がある。この提案を活かしたい
- ・体験プログラムとして作りながら、旅行会社と一緒に考えていけたらと思う

④農業×企業連携

- ・雇用就農者の受け入れ先である、大きな農業経営体をさらに大きくなるように、農地の集約化、集積を図っているところ
- ・提案にあった、「需要をとらえて、地域と連携しながら販売先、出口も含めて考えていく」ということは非常に大事。前向きに検討していきたい

⑤農業×福祉

- ・農業をやりたいという方はたくさんいるため、参入障壁の引き下げをどうするかを考えているところ
- ・農地のあっせんや技術指導支援、重労働作業のフォローなどを考えているところだが、「育てながら楽しさを味わう」ことを考えていきたいと思っているので、まさにこの提案はアグリパーク構想の一環になるような提案だった
- ・この提案も積極的に取り入れながら施策を進めたい

素晴らしい施策の提案、ありがとうございました！

いただいた意見や提案については、今後の県施策に活かすため、農政部で検討を進めていきます。

反映結果は参加した皆さんに報告するほか、HP等で公表します。(年度末を予定)

○知事のコメント

- ・大変感動している
- ・みなさんの提案は、まさに県でやらなければならないことだった
- ・農業×教育については、私も昔、6年生のときにさつまいも作りを体験し、そのことを発表した。この年代で体験するのは良いことで、鋭い視点
- ・農業×移住については、まさにアグリパーク構想のこと。昔は農家でないと、農地や機械を貸してもらえないという状況があり、その視点を持つことが素晴らしい
- ・農業×観光については、外国人観光客に目を付けたところが素晴らしい
今の観光は体験型に変わっていて、一緒になって農作業をするというのは、本当に最先端のアイデア
- ・農業×企業連携は鋭い視点だが、もうひとひねりできる。農家が収入を増やせる仕組みを考えると良い。また、農業は専門じゃなくてもよく、働きながらほうれん草を作っている女性もいる。地域の高齢者を雇用するなど、地域と連携して取り組んでいる。キッチンカーやスタンプラリーは良いアイデア。自分たちで売りに行く、スーパーとの提携に目を付けたのも素晴らしい
- ・農業×福祉の栽培キットのアイデアは、あると良いと思う。都会の人は農作物がどう育つかもわからない人がいる。キットを使ってみて、売られている野菜の価値や農業の面白さを知ってもらえるし、地域の高齢者とのコミュニケーションもとれる。そういう視点をもっているのもさすがだと思う
- ・全ての提案を採用したい。みなさんを農政部に採用したいと感じる素晴らしい提案だった

- ・ 本日皆さんにいただいたアイデアを政策にどのように反映したか、県として報告にくるので、皆さんの意見で社会が変わるんだということを是非実感してほしい
- ・ 聞いて終わりではなく、政策にする。それを是非実感していただきたい

